



# + ^ 9 + 1 連なるやね

賃貸集合住宅のあり方は、郊外の風景への装飾ではないでしょうか。

装飾を身に付ければ、それは街並みを作ることになります。

つまり、賃貸住宅には風景と街並みを共存させることができると考えました。

風景と街並みが共存するような賃貸集合住宅を提案します。

私たちは、9+1の住宅に10種の屋根を掛けすることで、既にある連続した住宅の風景に差異を加えることを構想しました。点在する郊外住宅の風景を繋ぎ合わせることで、住宅同士のあらたな街並みを生み出します。

一階では、最低高2000mm、住戸を立ち上げることで、今までの田園・風景と住人の接觸いとの連なりを持たせます。二階では住戸間に段差を付け、シーケンスを作り出すことで、街並みを連想させます。三階では、高さが異なった10種の屋根が折り重なるように、住戸間をまたぐことで、独立していた住戸同士に繋がりが生まれ、個人の領域が拡散する共同の場所となります。

## SITE



## DIAGRAM



一般的に整った住宅



田園風景との連続性を作りながら、パブリック性を持った庭を作る



プライベート性を持った屋根裏を作る。



高いに一つの秩序を設ける。

## PLAN



各住戸のアクティビティが現れ、防風壁である中庭に入れる動線が実際される。



各住戸の階段の向きと種類は、住人同士の接線変化を意識させる。



雨は、折り重なる屋根同士によって、受け流されながら地面に落ちていく。そこには、雨水の塊が生まれるかもしれない。

